

タイトル～<パチンコ～枠のインパクトの光と影>…「販売影響は？」

■「顧客目線」での機種評価に、【枠を含めたインパクト】はあるのか？

先ず、「1年前の記憶」を掘り返してみましょう。

昨年の「MAX撤去」からの「パチンコ秋冬商戦」において、「新枠ラッシュ」となりました。全てがミドルスペック機種となったあの時、一つのテーマが論じられた。それが、【牙狼魔戒ノ花の稼働低迷】の理由に対して、『**枠が変わっていないからダメなのか？**』と言う事実が影響していたのではないか？…と言う問題になる。

その根拠となったのが、「**スーパー海物語IN沖縄4**」において、新枠(本体)と旧枠(盤替え)機が「10月上旬」に同時リリースされた。結果、ほぼ**同様のスペックだが、その2機種の稼働差は歴然**だった事は、まだ記憶に新しい。

その後の10月下旬、「牙狼闇を照らす者」が、旧金色のリニューアルとして販売されたが、稼働低迷ははっきりしていた。

同時に「**ルパン三世9**」がリリースされたが、こちらは【**新枠**】でのリリースで稼働は好調であった。

そして、11月には「**真・花の慶次X**」が、こちらも【**新枠**】でリリースされた。そして12月に入ると、「**テラフォーマーズ**」が【**新枠**】、「**エヴァンゲリオン11**」と「**牙狼魔戒ノ花**」が【**旧枠**】でのリリースとなりました。

それらの新機種を眺めてみると、『新枠でのリリースが高稼働化に効果ある』と言う定義は確実であり、今の時代既に『枠は遊技機の演出の一部』であり、『ただの部品としての枠では無い』と言える。

■年末パチンコは、新機種ラッシュに！？

ではその定義を踏まえた上で、今年秋冬の「ミドル新機種(予測含む)」を確認してみよう。

【10月】…①「哲也3」・②「CRエヴァンゲリオン12」・③「CRぱちんこ必殺仕事人V～豪剣 Ver.」

【11月】…①「CR無双OROCHI」・②「CR喰霊一零一」・③「CRF. LADY GAGA」・④「CR不二子2」

【12月】…①「CR大海物語4」・②「CR真・花の慶次2」・③「CRぱちんこウルトラセブン2」・④「CRバジリスク」
⑤「CRF. マイケルジャクソン」

なんやかんやと、10機種以上がリリースされる予測です。(※12月に関しては、一部未定機種があります)

販売台数は、この流れだと【10月＝8万台】・【11月＝8万台】・【12月＝20万台】程度の推移かと思われます。

その中から【完全な新枠】と言われる機種は…「エヴァンゲリオン12」だけとなる。

塗色変更・枠部品変更等の「一部変更枠」としては…「必殺仕事人V～豪剣」「不二子2」「大海物語4」「真・花の慶次2」「ウルトラセブン2」が想定される。

問題は、その「変更度合い」になるが、本体導入を前提として、ピックアップ機種に触れてみたいと思います。

【仕事人～豪剣】…「ちょうちん役物」他一部が変更となるが、見た目の変更点は大きな変更とは気が付かない。

【LADY GAGA】…一応『新枠となる』となるのだが、あくまでも「汎用型」であり、無論専用枠の感は無い。

【不二子2】…「枠上部のロゴ」がピンクに変更されるが、「一部だけ」の感は拭えなく、「変更無し」と同等レベル。

【大海物語4】…「ピンク⇒青の塗色変更」となるが『海ならこれで十分』と言う見方で良いのかもしれない。

【真・花の慶次2】…「白⇒赤の塗色変更」だが、大海4とは異なり、『ただの色違い』と言う感は拭えない。

【ウルトラセブン2】…「フロント部分の全交換」となり、【新枠】と言っても過言では無い

その他の機種に関しても「サイドロゴ」等の変更はありますが、「ほぼ旧枠使用」となりますので割愛させていただきます。

■【大海4】と【花の慶次2】における、「塗色変更」の価値観の違い。

無論、この2機種においては、『新塗色の本体導入は必須』であり、旧枠での導入は、『稼働低下のリスクを誘発する可能性が高い』と言えるだろう。しかし【塗色変更の価値観】は、この2機種においては異なる事になる。

最大の問題は、『枠は遊技機の演出の一部』と言う観点に対して、初登場時の【枠のインパクト】が強い事が、その次の価値観(期待感)が変わってしまう事が、その理由にある

「海物語(シリーズ)」に関しては、『枠演出の存在は大きなインパクトが無い』⇒『逆に、色違い程度で十分』とも言えるが、「花の慶次(シリーズ)」に関しては、その逆で『前機種において枠演出の価値がある』⇒『次機種での新枠期待が高い』と言う事になる。

そして「その価値観」を作ったのは、「牙狼(シリーズ)」である事は、否定できないところでしょう。

■新台の販売台数は伸びるのか?・・・メーカーの誤算はあるのか?

現在のホール側としては、『今はそれどころでは無い』と言うのがホンネだと思われます。・・・と言うのもホールの今は『認定機問題が最優先課題となる』からになる。そしてメーカーにとっても「最大の誤算」になるのかもしれない。

それは・・・『認定機はホールから撤去できない』と言う現実があるからです。過去においては【認定機種は年間4万台(PS合算)】と言われる。だがそれが、今年の年末の【約4か月で80万台の(早期)認定】と想定される。

パチンコ機においては、PS比率から考えても【その2/3に当たる50万台】が認定される事になる。そしてそれはホールにとって『将来的に撤去したくない』機種であり、『認定通知が発行されるまでは撤去出来ない』機種でもある。

具体的な想定するならば、早期(前倒し)認定に関しては「11月申請～1月31日まで」は撤去出来ないのです。

だけど、それに反して「10月～12月、または来年1月迄」に、それなりの新機種がリリースされる事になる。

更に、その機種(台数)は、ルール上においても『中古売買が出来ない』機種でもある。つまり、ホールにおいても、『転売しての予算編成は出来ない』事になる。それは単に、【新台導入⇒高粗利⇒撤去⇒転売・・・新台購入】と言う「経営スキームの一つが失われている状態」に陥ると言う事になる。

果たしてメーカー側は、その現実を理解しているのだろうか?あくまでも私感ではあるが、『まだメーカー側は理解できていないのではないか?』と感じる。『認定の予算が必要になる』事は、新台購入の予算に比較すれば、「決して大きな金額では無い」。つまり、認定に掛る経費の多少は、新台購入の多少への影響は、極めて少ないのです。

結局のところ・・・【メーカー誤算は2つ】はこうなる!!

1つは・・・今年の秋冬は、認定申請中機だらけで【ハズせない遊技機だらけ】と言うホール事情。

1つは・・・中古売買による【営業外収益が極めて減少する】と意図、予算減少のホール事情。

それを乗り越えて、メーカーは想定(希望)通りの販売台数に達する事ができるのであろうか?

このコラムを目にしたメーカーさんは怒るかもしれないが、「その可能性」もまた、今の業界の現実でもある。

<このコラムは、フリーコンテンツに該当しております。情報共有可としますが、転載・改ざん等はお控えください>

<また、文章・資料等の所有権は、「有限会社トータル・ノウ・コネクションズ」に帰属いたします>